

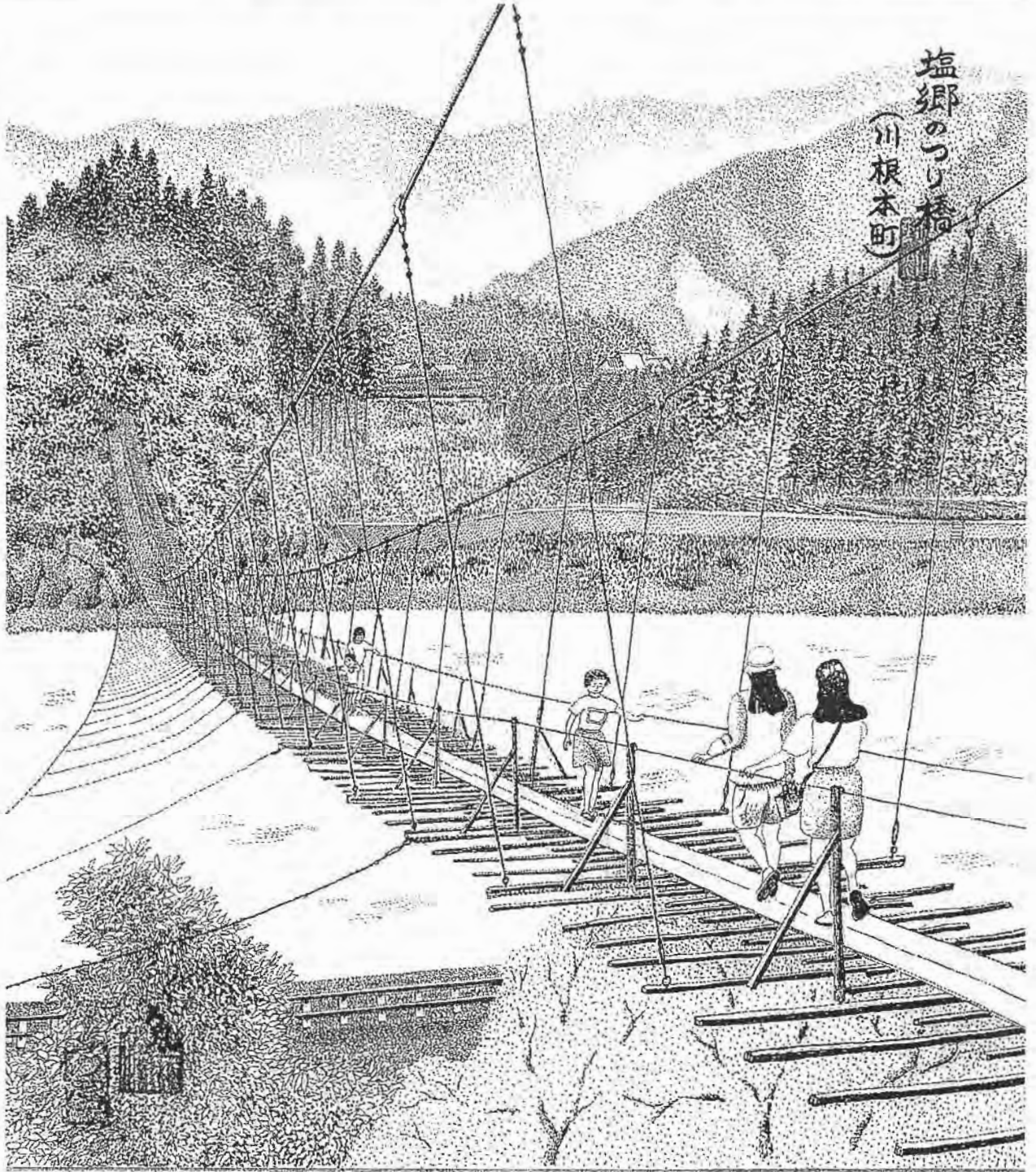
中川根ふる里通信

= 第 95 号 =

中川根ふる里通信
昭和 61 年 4 月 20 日 創刊
編集・発行・連絡先
静岡県榛原郡川根本町上長尾 859
TEL. 0547-56-0015
FAX. 0547-56-0020
郵便振替口座 00870-4-81356

<http://furusatotsushin.yamanoha.com/>

本名くのわき橋、愛称恋金橋、通称塩郷の吊り橋……



塩郷のつり橋
(川根本町)

大井川鉄道塩郷駅 から歩いて 5 分、大井川にかかるとる吊り橋は、大人気で、通年渡る人であふれています。風も画いのにゆらゆらゆれて、スリル満点。誰もが楽しめる観光スポットです。今回は点描画の荒波守夫さんの作品から。

川根本町から世界へ ロンドンオリンピック・2012

大村朱澄選手

おつかれさまでした。

カヌー・スプリント競技女子日本代表

「ロンドンレポート」

町長 佐藤 公敏



大村朱澄選手後援会長として、ロンドンオリンピック・カヌー・スプリント競技の応援に、参加させていたたきました。

ロンドンの夏は、蒸し暑い日本とは違って、涼しいというよりも肌寒くさえ感じました。

予選当日の8月7日、早めに朝食を済ませ、地下鉄を乗り継ぎ、シャトルバスで会場へ。ロンドン郊外にあるイートントーニーのカヌー競技場は、周辺に王室の土地や施設もあるらしく、広大な敷地に設けられた素晴らしい競技場で、オリンピックにふさわしい雰囲気を用意した会場でした。

予選2組でスタートした北本・大村選手のペアは、スタートして間もなくから水をあげられ、後半の追い上げを期待しましたが、差を埋められず、観覧席からはうかがうことができませんでしたが、大村選手にとっては不本意な結果となり悔

しかつたことでしょうか。この悔しさが次へのバネとなります。残念な結果となりましたが、次の勝利にとって無駄な敗北はありません。大村選手はまた発展途上、これからの活躍が期待される選手です。今回の経験から学ぶことは多いはず、筋力をつけ、技を磨き、タフな精神力を養って、上を目指していたたきたいと思います。

——広報かわねほんちゅう9月号より——

ふる里の星、大村選手、晴れの舞台で頑張ってくださいました。ありがとうございます。そして、全国から応援して下さった皆様、本当にありがとうございます。

さて、7月末から、20日間ぐらい開催された、オリンピック・ロンドン大会、いかがでしたか。丸い地球の日付変更線は太平洋上にあり、日本は世界中で最も早く〇〇日を迎えます。ロンドンとは時差が8時間、決勝種目や夜の競技は、日本時間で2時頃から始まります。ついつい夜ふかし、とうとう徹夜と、生活のリズムは、狂いっぱなりました。が、閉年の四年に一度の大イベント、見のがすわけには参らぬと、テレビ大好き人間になりました。やっぱり日本人が活躍する姿は嬉しく、自然と力が入ります。特に大好きなバレーボールが久々に銅メダルに輝いた時は、涙が溢りました。水泳も体操も、球技もその他の競技も皆、良き成績でした。あの東京オリンピックから48年、半世紀も過ぎてしまいましたね。時の流れは、早いものです。又、日本にオリンピック、来てもらえるかな。オリンピック効果大きいですね。

平成24年度各種茶品評会結果のお知らせ

★第66回全国茶品評会 普通煎茶4kgの部 敬詳略

- ・一等五席 丹野園 丹野浩之
 - ・二等一席 松島園 川崎好和
 - ・二等十席 相藤園 相藤令治
 - ・二等十席 ティーサークル徳山代表花村一夫
 - ・三等十席 農事法人中川根はちなか園代表中村宗夫
 - ・三等十四席 (有)川根香味園代表大村雄一郎
- ★静岡県茶品評会 普通煎茶見本500gの部
- ・一等一席 丹野園 丹野浩之
 - ・二等五席 つち也農園 土屋鉄郎
 - ・二等六席 田野口第一製茶組合代表田畑義次
 - ・二等八席 松島園 川崎好和

全国茶品評会 普通煎茶4kgの部出品者10名(社)釜炒茶5名(村)が今年も挑戦されて、見事6名の方が入賞されました。おめでとうございます。今年も会場が静岡県(掛川市)であった為、上位入賞を望む半面、静岡県産地全域が力を入れますし、関東茶産地も放射能被害から立ちなおって、頑張られた為、川根茶にとっては、いつになく厳しい結果になってしまいました。が、来年に向かって、新たな目標が生まれました。お茶は、健康の為のすばらしい飲み物です。頑張ってください。

ふる里の文化財

第三回 佐沢薬師とお祭について

表紙のくのわき橋を渡ると、久野脇地区となります。その地に薬師堂があります。町や県の指定は受けておりませんが、妻恋・佐沢薬師として、長い歴史があります。ご紹介します。

今回、中川根広報・中川根町史・中川根町の文化財冊子を参考に、まじめました。本尊薬師如来は秘仏で、十千十二支の庚子(かのこ)の年六十年毎の御開帳で見れるものでもなく、写真もない為、大祭の日、お参りした人のみ、拝見できるもので、その大祭が七年後にせまっております。

※中川根広報 昭和54年11月30日号より

“六十年祭を迎える”(昭和35年・一九六〇年)

川根地方の奇祭として知られる妻恋師・久野脇佐沢薬師の祭典は、毎年正月七日夜の火おどりから、翌八日にかけて例祭が行われるが、六十年目毎に行われる大祭が、丁度来春に当り、地元では、今から準備に大わらわである。

古老の話だと、この六十年祭には僧侶十数人によって法要がいとなまれ、門外不出の御饗が、巳年生まれの男衆によってかつき出され、部落の戸毎を回り歩くことになり大変なごわいになる由。またこの薬師が奇祭として老若男女、ことに独身の男女にも参拝者には相手を与えてくれるという誠心誠意あふれたかたは、仏様である。昔は青年男女に何の慰安もなく、又交際の手掛もなかったことから、縁結びの神?としてまつられたものと思われる。この宵祭りの火踊りは男女モミ合いはから、素朴な唄(別

掲)によって深夜まで踊りまくられるのである。

※薬師堂の変遷について。―町史・文化財冊子より―

勸請は詳ではありませんが、三津間の前田さんの裏手にありま
した。戦国時代、武田信玄によって焼打ちにあい、如来像も堂も焼失
したままになっていました。

慶長九年(一六〇四)三月、杖沢(標高六〇m、地区から八kmほどの山中)
に再建されたといわれています。その後、大正十二年(一九二三)一月、現
在地に移されたものです。

所在地 川根本町久野脇筒井元一三三の二
杉沢一三二八の四

「参考(山中の所在)」

薬師堂、杖沢、一三九五番、諸田甚五左衛門所有の内

本尊、薬師如来。一、堂は間口三間、奥行三間、一境内二六坪。

一、信徒三七〇人、久野脇村戸数六〇戸。一、受持僧侶、智満寺住、職、蓮龍童

御本尊は薬師如来像で、江戸時代初期(作者不明)蓮華の
台座の上に座した木像で、高さ約三六cm、左手に薬壺を持って
います。この薬師様は大変美男で、妻、薬師とも愛称されてお
り、願をかければ良いお嫁さんが授かるといわれています。

毎年正月七日から八日の朝に、かけて例祭が行われています
が、庚子の年、六十年毎の御開帳の特別大祭は、次のとおりとな
ります。

西暦 (2020) 1960 1900 1840 1780 1720 1660 1604
平成 32年 昭和 35年 現在地
明治 33年 天保 11年 安永 9年 享保 5年 萬治 3年 長享 9年 慶長 再建 以下

昭和三五年の大祭では
近在の老若男女を集
めて、にぎやかな大祭が
行われました。

七日の夜には、地区
中の人がこの薬師堂

次回

に集まり、あかあかと燃えあがる焚火をかこんで老若男女、
互に手をとり、肩を組み、足を踏みならして歌い踊り、明け方
まで村中安全、家内無事を祈願するのだといわれますが、近年
は若い男女も少なくなり踊りもすたれていくようです。
この踊りが「ヒョウドリ」とよばれているもので、火除けとか、
火踊りとか、雪踊りとかいわれています。昔、雪が降り続い
て困ったとき、この踊りを踊って雪の降らぬより祈ったのが
始まりだと伝えられています。

※佐沢薬師火踊りの歌―町史資料編より―

心よく持て峰の松 心わるいと風に逢う
心わるくはござらぬが 立場悪くて風に逢う

子持ち冷女で子のなきは 鳥の巣殺しなされしか
鳥の巣殺しやせぬが 殿さしたかもわしやしらぬ

東山から西山へ 青い女人の影がさす

青い女人の影ではなくて 青い羽織を着た殿御
すいも甘いも身に持つ故に 色づきや裸になる密柑

しのぶあなたの手拭い取って 月にさせたいはほかむり
赤いさかすきすむまで待つて 待つてちやうだい松の針
世話にしてくれわしよいとこへ 姑こじやとりのないとこへ

姑こじやうとはあるべきものよ 殿のご器量のよいとこへ
殿のご器量はどうでもよいが 田地宝のあるとこへ

とりが鳴こうと夜が明きよと お寺で和尚が鐘つこと
若いさかりだ踊ろうよ

瀬沢平谷の女衆 けつに前掛つゝかけて
佐沢薬師にしゃれかける

いもを食う食う山いもを 姉さ出せ出せいも茶の子
いもがなければ茶がますい

(佐沢山薬師如来堂開帳縁起、沢井南窓氏記より)

地名が葛籠か石風呂か せめて三村に縁ござれせめて
三村に縁なくは地名のおせどの久野脇はみかん娘の名産地

地名の甚太が来るそうて 川の瀬がなる音がする
佐沢薬師は妻薬師 妻と定めりせきんみょうだ

女子衆なが高山山 高山山では何が衆
朝日さすまで寝るが衆 朝日さすまで寝るわしら

鏡手にとるひまもない 鏡手にとるひまはしら
たすき投げおくひまもない

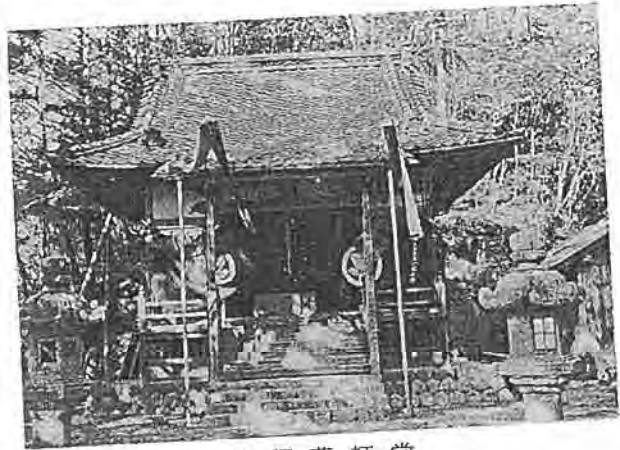
はんば出せ出せ茅茶の子 茅がなければ茶がのめん

ヒョンコ ヒョンコ

(坂本勝平氏他編「むかしむかしのくのわき」より)

——武中光章氏著「大井川物語」には

鶉踊りは毎年正月の七日の夜から八日の朝まで徹夜で踊る
そうである。一説には、昔、悪魔が降りつづいて、人々が難渋したの
で、豊取りの歌をうたい、踊りを踊って豊が降らないように
祈ったと伝える人もあるが、踊りのときの昔から歌われてい
る歌詞には、やういう豊取りの願をこめたものは一つも無い
ので、この伝承は怪しいとされている。



佐沢薬師堂

この踊りは夏の盆踊りのように、大勢が輪になつて一人が
音頭をとると、残りの者がこれに付けて歌う。歌は時に
早くなり、また遅くなる。若い男女が入りまじつて歌い踊る
ので、意志を通じあう機会が多く、昔は、結婚を申し込むと
親が「ひよ踊りで約束したか」とたずねたものだという話
である。——と書いてある。

——沢井南窓氏は「佐沢山薬師如来開帳縁起」の中で

このひおどりはいろいろに言い訛されているが、火おどりと
云うのがほんとうしく村人たちの睦み合う心の中に、美しく
そいて温い火を焚くものらしく——とあります。

以上、残された資料にもとづき、佐沢薬師と祭り、その中
でくり広げられる火おどりなどを紹介しました。残念なが
ら、年々、祭りの規模が小さくなり、参加者も少なくなつてい
るといわれています。

佐沢薬師堂は、久野脇地区と三津
間地区の間に半島状に伸びた

丘のつけ根にあたる所に座して
大井川の大曲流、鶉山の七曲りの
上流部が直下に見えます。対
岸の地名地区から伸びる半島
の端と久野脇は、近く、すぐ手前と
どきやうでカンノセと言ふ名前です。
その昔、地名の若い衆が、カン
ノセを渡つて、お祭りに来る
様子が、歌垣にも増し、目に浮
かぶやうです。この素晴らしい
伝承を、続けてほしいと切に願
います。

お茶のことは・ことわざ

静岡市 石塚 幸 男

お茶は、私たちの暮らして深く根付いていることは、さ
まざまな誘いや言葉の中でも頻りに出てくることから分かる。

前項の「お茶を飲むと色が黒くなる」は、全くいわれも由
もない俗語である。もし、そうだとして、それでは茶生産地で一日
十杯以上も飲むと言われる川根地方の人たちはどうか、日焼
けのせいで黒くなっている人たちはどうか、それはどこでも同
じだろう。普通の肌色であるし、むしろつやつやした肌の人
が多い。

お茶の師匠さんたちはどうか。私の知っている限りこの
人たちは色が黒いどころか、しみもなくきれいな肌をして
いる。

この現象をちよつと難しくなるが、化学的に見地から説明し
てみよう。

お茶の主要成分のビタミンC・E・Pは、毛細血管を強化し、
皮膚組織に弾力性を与え、皮膚に潤いと若さを与える。

皮膚の色のシミの元凶はメラニン色素であることは周
知である。この色素は、アミノ酸のチロシンがいろいろの
変化を経て、生成するのである。

化粧品メーカーや大学、研究所などでの実験によれば、試
験管内では、チロシン……ドーパミン……ノルエピレナミン……
メラニンと化学変化し、ビタミンCはドーパミンからノルエ
ピレナミンへの変化を助ける酵素を阻害し、ノルエピレナミン
の生成を抑制する。結果としてメラニン色素の生成を防ぐとい
うことになる。まさに舌を噛みそうな名前の連続だ。人体の場

合はまた、研究中だそうだが、お茶で色が黒くなることはあ
り得ない。

どうしてこんな根拠のない俗信が生まれたのであるのか。
昔、高価なお茶を女・子どもが飲んでひまつぶしをしては
困ると言うことから、逆説的に言われて来たもの、という説
が主流のようである。

「子どもがお茶を飲むと風が吹く」「茶を飲むと早く年を
とる」「茶を飲むと目が悪くなる」なども同じ調いで、お茶は
貴重品だからたくさん飲ませないようにする方便であろう。

なお、「秋ナスを嫁に食わすな」という言葉は広く知られ
ているが、これを嫁いびりとも、あるいはナスは冷えのもと、たか
ら妊婦に悪い、という二つの見地が考えられる。前者となると
お茶の場合と似てくる。井上靖の回想は「祖母」の教えをその
まま信じていたことを物語る。

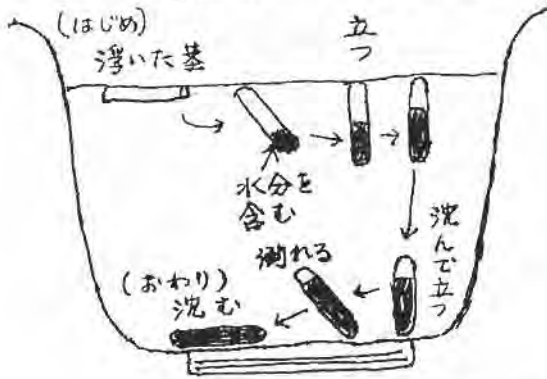
お茶の悪口？ ついでにお茶のマイナス面の誘言葉を見て
みよう。「宵越しの茶は飲むな」は、そのとおりである。暑
い日、飲みこしのお茶を放置しておく、うっすらと白いカ
ビの様なものが生えているのを、夏の方もあるだろう。これ
は茶葉のタンパク質が腐敗している現象である。体に悪い
ことはいくつまでもない。

飲みこしの急須をそのまま冷蔵庫に入れておく節約家
がいた……。何を隠そう、うちの^お上さんだ。「せちがらい世の
中だが、お茶ぐらいケチケチしないで飲むうよ」といったら、
しぶしぶ止めた。

「空腹時にお茶を飲むな」もそのとおりだ。お茶には
有効成分として、つねに脚光をあびてきたカテキン(タンニン)
が含まれている。食後または食事中普通に淹れたお茶を
飲む場合、カテキンの濃度は胃の働きを活発にする。ところが

茶柱が立つ様子

—湯のみの断面透視—



が、ちよつと濃くするが、胃越しになつたりすると、濃度が高まつて胃壁を荒らす。実験では、1%のカテキンの茶を飲ませたネズミの全体が胃粘膜に異常を来たし、続けたところガンにまでなつたネズミもいたやうだ。ああ、怖ッ！

次はめでたい「茶柱が立つと縁起がよい」「茶柱が立つと来客がある」「茶柱が立つと手がでできる」のことわざの類に移る。

「茶柱」は、茶の茎が茶碗の中に入らない限り立たない。このごろの急須は、茶漉しの目が細かいので、特に茎は入りにくい。だから、「茶柱」には滅多にお目にかからぬ。まれにしか茶柱が立たないこと、また前にも述べたように柱は一家の支えとなる大黒柱の連想から、吉兆と相成つたと言われている。

茶の茎には、顕微鏡で見ると無数の穴がある。急須をすり抜けて、たまたま湯のみに入る幸運児？がある。それが水分を吸ってだんだん重くなつて図のように立つのである。

実験によると、乾燥した茎ほど長く立ち続けるやうだ。私がやつてみたなら、何回やつても成功しなかつた。私は、よっぽど運に見放された人種らしい。でも、過去何回か、「茶柱」と遭遇？したことはあるにはあるが……。

なお、「茶柱が立つと来客がある」は、多分よ

い来客だらうか、現在は来てもらいたくない来客もあるから、あまり使われていない。ものの本によると埼玉県入間地方で言われたらしい。

ここで、茶道に由来した、もつとも入口に膾炙かいはしている言葉に融れてみる。

それは、「二期一会」だ。

この言葉は、今広く市民権を得ているやうだ。先日、A、KB48の一人が、テレビのインタビュで好きな言葉として、「二期一会」を挙げていた。気をつけてみると、彼女のみならず、芸能人にはこの言葉を挙げる人が多い。社会推理派の作家森村誠一の『レッドライト』という小説の二節に

「『お客様さん。ご心配なく。私のお客様さんのことを、だれにも言いません。一期一会のお客様さんについては降車された後、すべてを忘れてしまいます』」

運転手は桑崎の心理を読み取つたやうに言った。

というのがある。

犯罪を犯した桑崎の血の匂いに気付きながら、たまたま乗ったタクシイの女性運転手が言った言葉だ。約束どおり口をつぐみ続けるのである。

同じ作家の阿刀田高あとうたかは「二期一会」について「人との出会いは人生そのものと言つてよい。ゆるんだ気持ちではなく、その場その場の一瞬を大切にしていきたい……略……そうありたいと願っているけれど、私自身、実践しているとは、とても言えない。理想である。夢である。あらまほしい姿と告

自すべきだろう」と実践の難しさを述べながら「たゞ七十余年を生きて来て、男女関係には、そこはかとなく一期一会、そんな気配の漂うケースがありまゝ」と告白し、かつ「女性については、——あの日、あのとき、——思いを致しなから結果として一生会えなくなった関係、そういう情況、これは確かにありますね」と言っている。

さらに「この言葉は」茶道ばかりでなく、恋愛道においても、——今日を限りと思つて頑張りやう——役立つ言葉ではあるまいか（『日本語えとせとら』）と粋なコメントを投げかけている。どうだろう、読者諸氏にも勇気づけられる方もおられるだろう。

さて、「一期一会」の出典は何であろうか。承吉によつて切腹させられた茶人千利休の弟子山上宗二の著『山上宗二記』から、出たものである。（山上宗二も実は承吉の手によつて非業の死を遂げた。）それには、

「常の茶の湯なりとも路地へ入るより出づるまで、一期に一度の会のやうに、亭主を畏敬す可し。世間の雑談は無用なり」とある。

「平常の茶の湯でも、路地（露地）に入るときから茶会が終つて路地を出るまでの間、一生に一回しか会わない貴重な時だ」と心得て、亭主を畏れ尊敬すべきだ」ということである。

後世さらに、それを敷衍して、桜田門で浪士の凶刃に斃れた大老井伊直弼がその著『茶の湯一会集』に、

「そもそも、茶の湯の交會は、一期一会といひて、たとへば、幾度おなじ主客交會するとも、今日の會にふたたびかへらざることを思へば、実に我が一世一度の會なり。去るにより、主人は万身に心を配り、聊も廢末なきやう深切実意を尽くし、客にも此の會に又逢ひがたき事を辨へ、亭主の趣向、伺売つもおろそかならぬを感心し、実意を以て交はるべきなり。是を一期一会といふ。必ず必ず主客とも等閑には一服をも催すまじき苦之事、即ち一会集の極意なり」と言っている。

要旨を言つてみると「……その日の出會いは、今日の日は二度と来ないから、一生に一度しかない出會いだと思つて大切にすべきである。主客とも、相手にいささかも失礼なことはないよう、真心を尽くすべきである」ということになる。

さらに碎いて現代風に言い換えると、「この世では、自分一人では生きていけない。相手あつての自分、自分あつての相手、お互いに相手をつたわり合つて生きていかなければならぬ。そのために今の出會いは、一生に一度しかないと思つて、誠意を尽くす『一期一会』の心配りが肝要である」ということになるだろう。

けれど、人生をいかに生きるかの指針となる言葉である。さて、人生長く生きていくと色々なことに出會うものだ。『一期一会』の重みを実感したことが多々ある。

◆高校時代の『一期一会』……卒業間近の高校三年生は、記念の意味でお互いに相手のことと自分の思いなどをノートに

書きあひ、交換するといふ、いわば卒業版交換日記をしたことと
 どなたでも経験していることであろう。

私のノートに『一期一会』と達筆で書いてくれた親友がいた。
 彼とは学部こそ異なれ、同じ東北大学に進んだ。そしてたびた
 び会つて交友を深めた。彼は医学部進学を控える身であり
 ながら、余り勉強せず(当時ほどの学部からも試験さえ受か
 れば医学部に進学できる制度であった)私を心配させていた。
 彼は医師の父の跡を継ぐべき一人息子であった。母親は亡く
 なつていたが、父親は息子のことを思つて再婚しなかつた。そ
 れも村に一軒しかない医者の子……。いわば郷党の期待を一身に
 背負つた村一番の秀才であった。

彼はまた、今でいう超イケメンで女性にもてた。そつちの
 方面も活躍(?)する享楽派でもあった。新しい恋人ができ
 るたびに、彼は「逢う瀬」(今のデート)の様子をとくとくと
 聞かせたものだった。そのたびに私は羨ましく、「こいつめ」
 とどやしつけるのであった。これも後から考えると父親や郷
 党から期待される負担から遠ざかるための心理的逃避だった
 かもしれない。

その彼は私の知り合ひの葉局のひとり娘と恋に落ちた。
 彼女は私たちとは十歳も年上であつたが、頭脳明晰で美し
 い女性だった。彼は、私がその家と懇意にしていることを知
 つて、彼女を紹介してくれと請うたのである。私は軽い気持
 ちで紹介した。まさか十歳も年上の彼女とは深みにはまる
 とは思わなかつたのだか……。

しかし、彼らの恋は真剣になつていった。よく私に彼女がい
 かに素晴らしい女性かをしみじみと語ってくれた。

それでも、私はそのうち今までの彼の恋人たちと同じよう
 に、彼女とも別れて勉強に励むようになるだろうとたかを

括つていた。

彼女は葉局の一人娘で婿取り、彼は医者の子一人息子、し
 かも年上……客観的には結ばれるはずのない関係である。

それは、彼と彼女の心中行の一週間前のことであつた。寒
 風吹きすさぶ広瀬川近くで彼と屋台酒を飲んだ。私は下
 戸、彼は上戸、私はおでんをつまみ、彼は手酌で日本酒をぐい
 ぐい啜つていた。

ふだん饒舌な彼はそのときに限つて寡黙であつた。が、と
 きどき何か私に訴えるようなしぐさをしていった。私は自分自
 身なんとなくムシヤクシヤして、それと気づきながら、わ
 ざと彼の話に耳を傾けようとせず勝手にオダをあけてい
 たのだつた。

それは忘れもしない前期試験の真つ最中、生物学のムラ
 サキツユウサの原形質の流動の問題に挑んでいたときだった。
 突然彼の心中行を知らされた。すべてをおぼり出して、
 私は現地に飛んだ。

彼らは蔵王の深い雪に覆われて静かに眠つていた。

すべて終わつて、私は深い痛惜と悔恨の念に駆られていた。
 あのととき彼を思いやる気持ち、『一期一会』のカケラほども
 あつたら、彼は何か話してくれていたかもしれなかつたし、別の
 進展もあつたかもしれない。ノートの達筆な文字を見るたび
 に彼と、そして彼女をほつきりと思ひ出すのである。

高校卒業時の彼は『一期一会』の文字は、何気なく書いて
 くれたのたろう。私もなにげなく受け取つた。しかし、年月を
 経るほど、その重みが胸中になじりしくくるのである。

◆川根本町田野口での『一期一会』

今年三月、川根本町田野口地区のOさんから、お電話をいただいた。拙文を「中川根ふる里通信」でお読みになって、「田野口たのしみ会」で何んでもいいから、話をしてくれという依頼だった。

快諾した私は、平成二十四年四月十三日大井川鉄道に飛び乗った。駅頭で幹事の方と、「中川根ふる里通信」編集長小澤節子さんの出迎えを受け、会場に向かった。

会場は四十人ほどの川根^{かわね}人でいっぱいだった。その人たちは、私の「お茶あれこれ」と題した拙い話に、うなずきながら、ときどき笑いながら耳を傾けてくれた。とても話しやすかった。

話の中に、「一期一会」と若くして逝った友人のことに触れた。「この言葉を聞かされた時に、この重さを噛みしめるのです」と結んだ。拍手が起った。

話し終わって、席を立とうとした私は、Oさんから見事な竹の筒に毛筆で「一期一会」と書いた文字を浮か彫りにした掛け飾りを「ありがとうございます。先生のお話と、ぴったりにしていると思います」というお言葉とともにいただいた。

どのようにして作成したものか、小澤編集長にお聴きしたところ、よく分からないかと前置きして、「レーザー光線で字の部分と切断して、切断面を立体的に浮かせ、ボンドで張り付ける」とのこと。何でも十数年前に開発されたそうである。

川根の健康的で優しい人たちはまさしく「一期一会」の出会いだったんだなと改めて思った次第である。そしてこの出会いが再びあるように心から思わずにはいられないのだ。

この宝物は今、拙宅の玄関に華を添えている。

◆ 高校卒業式の一期一会

二〇二二年三月一日火曜日。静岡県立静岡南高等学校の卒業式が行われた。開会の辞、校長挨拶、来賓祝辞、表彰、在校生

生送辞……この高校でも行われる、式次第が淡々と進んでいった。続く答辞。これも型通りと思っていたが、違った。卒業生代表の前生徒会長Yの言葉は、ところどころつかえつかえとして、決して上手とは言えなかったが、涙をこらえ噛みしめるように発する一語、一語は、母校愛や卒業の寂しさ、前途への不安と希望が率直に語られ、参列者の胸を打った。

在校生、卒業生退場後の卒業生父兄謝辞も、とかくありがちな形式的な美辞麗句を並べたものではなかった。具体的なお事柄を一つひとつつぶさに挙げながら、学校への謝意が心から吐露されていて、先生たちは感慨深げに聞き入っていた。

が、この後に劇的なシーンが待っていたのだ。体育館に残っていた全員が本館につながる廊下に向かった。と、突然混声の大合唱が響いてきた。

さよなら 大好きな人 さよなら 大好きな人

まだ 大好きな人……

最後だと言いついて、最後だと言いついて

涙よ 止まれ さいごに笑顔を

覚えておくため

ずっとずっとずっと 大好きな南高^{なんこう}

ずっとずっとずっと 大好きな南高

先に退場した卒業生全員が、本館側で、通せんぼするようにならちに向き合って、手を握り合い、肩を組みなか

ら歌っていたのである。見事なハーモニーだった。立ち往生したまま教師・父兄は涙滂沱であった。

私は長い教師生活の中でこれほど感動的な卒業式を見たことがなかった。生徒・父兄・教師の心が一体になった。そして、全員このときのことを一生忘れないだろう。まさしく『一期一会』の真髓を具現したような卒業式であった。

ちなみにこの替え歌の本歌は十数年前TBS系で放映されたドラマ『オヤジ』の主題歌である。これは亡き人を偲ぶ歌であるが、卒業生たちが思いついて上手に換骨奪胎したのである。

運命のいたずらか、私は静岡南高の前年は清水商業高、そして南高の後には静岡市立商業高に勤務した。いずれも来年度学校統合により校名が消えてゆく高校である。

清水商業高は庵原高校と合併して、静岡市立清水桜が丘高校となるし、静岡南高は市立商業高と合併して静岡県立駿河総合高校となる。

ともあれ、我が人生、晩年になっていくにつれて『一期一会』を味わう機会が増えていくのを、しみじみ感じていたのである。

—— 完 ——

※文中語句説明——編集室より——

① 膾炙かいしやく 〓 ますますとあぶり肉は味がよく万人に好まれることから、広く世の人々に知られたっていることの意味

② ありまほしありまほし 〓 こうありたい、あることが望ましい、理想的。

③ 敷衍ふえん 〓 わかりやすくわしく説明すること、展開すること。

④ 郷覚きょうかく 〓 その人のふるさと、またはふるさとに住む人々。

⑤ 滂沱ほうた 〓 涙がとめどなく流れるさま。雨がはげしく降るさま。

⑥ 換骨奪胎かっくつたうたい 〓 すでにある事例を、発想・形式などを踏襲しながら、独自の作品を作り上げること。などがあります。

おぢの 小さなふやれ 第一回

野田 おり

はじめに

わたしの小さなつぶや記やミニブックを作ることなど、大それた考えも持たなかったし、まさか……無能な自分に出来る筈が無いと思っていた。

二十数年前から、時には気が付いたことを、ちよつとメモって置くことが好きで、登山や旅行が激しくなるにつれて写真とメモが多くなり、いつの日からか整理して見たい……と思う衝動に駆られ、歳を重ねるにつれて……その思いは深まる。

パソコン以前からワープロを使って、メモや記録を書いたり、写真に感動を付け加えて楽しんでいった。然し、歳取ると共に、速く手付けなければと焦りはじめ、数々の写真集を整理して、自作の、私の小さなつぶや記を少しずつまとめる。紐で綴じるのは、だんだん追加が出来て、徐々に整理するには打って付けて非常に便利。大きな利点に気が付き、今もって続行している。

大きな恥でも小さな恥でも恥は恥……恥っかきもしいい加減にと、時には自身をなだめたり、生き甲斐は何だったの？と問いかけてみたり、揺れ動く心境に苦しめられながら、やっぱり書き続けよう。恥のことはオミットして、パソコンに向かう間くらいは楽しく、意気揚々でなくっちゃつまらない。

笑う人は大いに笑ってくれればそれでいい。助言を下さる方は、諸手を広げて大歓迎、だって……一人寂しく人生を送るなんて

そんなつまらない事なんて嫌だから・・・

この記録短歌・川柳・左にあらず

我が心のつぶや記なりと自証する

生涯が学びの道と気づくとも

時すでに遅し 五十路の身では

重要な事でも忘れる 昨日 今日

痴呆の園は タイムリミット

四国路の大歩危小歩危は 絶景なれど

人生の大呆け小呆けは 祖谷溪のう・

成せばなる成さねば・・・の教えに励まされ

独学の身は 時の流れに

人の口戸は立てられぬの諺と

浮かぶは亡き祖母 深き愛

論すすべ 今はなくした老いし父

車椅子に乗せ 墓参りする

病み老いし 父母の身思う 日々なれど

遠き住まいに なすすべもなく

——七回忌を偲んで——

貧しくも生きる道をば 恥じらうな

口癖の文 今すでに亡く

折に触れ 父母を偲んで 親不孝

遠き目覚めに 地国駄を踏む

筆者連絡先

野田おり、〒420- 静岡県葵区瀬名 1-2-29

メールアドレス old-69@sf.tokai.or.jp

人生の浮き沈みを生き、堂々と

定年で去りゆく友を 拍手で送る

少女たち 身を顧みず 人命を

今朝の記事には 心晴れ晴れ

古き世の栄華を誇示す 重文化

別所の里に 平成の世まで

彫り深し 別所の夫婦 道祖神

有るべき姿 教え苔むす

生島も足島(神社)の意も 諭されて

本殿前で 両手を合わす

幾年か 隔てて 会いし 学友に

無事の証と ご無沙汰詫びる

健康を取り戻された喜びは

平成の年を重ねて 思いひとしお

まねごとの短歌・俳句を書いてみる

心と感動 表現出来れば

夏草の茂みに咲きし 黒百合に

人生ならば...と 何をか学ばん

馬鹿のほど 流布せしのは 重荷なく

開き直って 生きるのみ

心境を 文字に託して 教えとう

余生の我が歩むべき道

わたしの小さなつぶや記・・・次号に続きます。

友への書簡

細田洋司

「国政に携わる人は勿論のことだが、県政や町政でも、政治の場に臨む人たちは、まず、『日本国憲法』をしっかりと理解する。そして次には『地方自治法』など、県民、町民の生活に大きな影響を及ぼしている法規を熟読することが大切なのだ。

それを、まず第一にすることが『議員』のつとめだよ……」
30年ほど前、所用で訪れた家の御主人が私に、静かに語りかけてくれた、とばかり一節で、今も、眠を閉じると、その時の情景が、胸の裏に蘇ってきます。

その御主人は、とうに故人となりましたが、町政に長く貢献され、深い見識を持たれていた方でした。

私は町の内外で、いろいろな問題が発生するたびに、いつも、あの方ならどうという解決をされたのであろうか、また、どういってお考えを持たれたのであろうかと思つたものです。

私自身は、議員になろう、などという考えは全然持っていませんでしたので「地方自治法」という法律があることは知ってはいたものの、内容まで知ろうとは思っていませんでした。

しかし、その御主人のお話を聞いてからのち、町の図書室で読んでみました。

文体は当然のことながら硬質であり、法律用語もたくさん出ていましたが、その骨格となるものは、町民の暮らしをいかに守るか、その行政は、どうして、これに力を及ぼすのか、といったことが記されており、日本国憲法25条の具現化について細かに規定されています。

やはり根本は「憲法」なのだ、と、その時も、憲法に対する想

いを深くしたものです。

「日本国憲法」は制定されてから今年で65年目となります。「今の憲法は古くなつたから変えよう」などという人たちが出てくるようですが、それは全く誤つた考えである、といわざるを得ません。

「近代国家における憲法とは、国民が権力の側を縛るものです。権力の側が国民に、行動や価値観を指示するものではありません。」

数年前に与野党の政治家たちが盛んに言っていた、憲法で国民に生き方を教えるとか、憲法に、もっと国民の義務を書き込むべきだ、などと言うのはお門違いです……」

これは、憲法学者として高名な樋口陽一氏が、現行憲法について語って下さった言葉の一部ですが、そのことは、持つ重さというものを、私たちは、この際、しっかりと記憶しておかなければならないと思ひますね。

更に樋口氏は、明治の元勳といわれた伊藤博文のことも次のように述べておられます。

「今から百二十年も前、大日本帝国憲法の制定にかかわる政府の会議で、伊藤博文は『そもそも憲法を設くる趣旨(理由)は、第一に君権を制限し、第二に臣民(現代では国民)の権利を保全することである』伊藤は、いわば、模範解答を残し、憲法によって国家権力を縛るといふ『立憲主義』の考え方を理解していたのです……」

A君、いかがですか、この伊藤博文の考え方の基本が、今の「日本国憲法」の条文に活かされているのですね。

ですから現行の憲法は、しっかりと日本の歴史の流れの中から

生れてきているのです。一部の人が言う「押しつけの法律」では決してありません。むしろ、明治以来の基本理念が生かされたものである、ということも、改めて認識しておくことが大切である、と思います。

このところ、改憲論議や改憲志向が取り沙汰されているようですが、今の憲法は、そんなに軽いものではない、ということも、しっかりと認識し、上^{おま}にりの改憲思潮に乗せられることのないようにしたいものです。そして、その憲法から枝葉として諸法律が制定され、先に挙げた「地方自治法」もその一つとして存在しているのです。

今の時代は、国政や県政、そして、ムラやマチの政治に携わる人たちだけでなく、それぞれが、憲法をはじめ、暮らしに関係のある法律の存在について関心(または興味)のある部分から理解を深めていくことが必要とされているのではないのでしょうか。

A君には直接関係はなかったのですが、私の町では昨年(平成23年10月)から今年(24年春)にかけて、町政のあり方にかかわること、いろいろなできごとが発生し、マスコミにもたび取り上げられました。A君にとっては対岸の火事を眺めるような感じであったと思われ、私たち町民にとっては、とても大きなできごとでした。

小さな町とはいえ、一つの施策を実行に移すということは、同時に、それなりの予算(出費)を使うということですので、賛成派も反対派も真剣になる、ということは充分理解できま

すが、根本は、やはり「地方自治法」の目的とする、町民への充分な配慮がなされる上でなければ、実施に移す段階でつまづいてしまふことになるのだ、と思いますね。

それと同時に、事を協議するに当たっては、現職の議員の方がた

は言うまでもありませんが、これまで町政に携わってこられた方がた(OB)といつていいでしょうか)も、双方に対して敵対意識を煽^{あお}るのではなく、協調と創意の念が生れるようなアドヴァイスを出して頂き、たかつたと思います。

しかし、どちらも議ることなく、結果として、大きな紛糾をもたらすに至ったことは、まことに残念なことでした。

冒頭に紹介した大先輩の言葉の持つ重さというものを、改めて感じさせられたできごとでもありました。

「権力は町民のために行使すべきで、誰が見ても正義があり、公平な人間生活を生み出すものでなければならぬ。又、ドンキホーテ的な自画自賛をすべきでは無い。常に研鑽して権力を行使すべきである。」前号(川根文芸98号)に寄稿された会員小澤博さん(私の先輩でもあります)の文章の一部(「雑感」より抜粋)ですが、全く同感です。

また小澤さんは次のようにも述べておられます。「県下で最上位の過疎率。地方交付税の受取り額は県下一で、いうならば、他人様の税金で行政を司る人達は、恥を知るべきである。」私も、これに同感です。敢えてつけ加えるならば、「恥」を知ると同時に、「地方交付税」の存在に「恩義」を感じ、それを「町政」に充分に活かして頂きたいと思っております。

最上位の過疎率、そして高齢化率の最上位のこの町、これを逆手に(または、これからの町づくりの構想の中心にして)なにかを創り出すことはできないだろうか……。そんなことも、これからの町政の大きな課題になるかも知れませんね。

A君、今回は「憲法」のことから、わが町の事まで、いろいろと思いつくままに記しましたが、お気付きのことなどありましたら、お教えください。では又、

平成24年5月

魚釣り大好き少年の

八十歳までの大井川魚捕物語

河 畑 房 次

ほくは子供の頃から魚釣りは大好きだった。

小学校二年ぐらいから「ヒテバリ」(オキバリという地域もあるとか)要するに、夕方、川の中にエサをつけた釣針をひいて(ヒテルと積けるは同じような意味か。広辞苑にはツゲルはあるがヒテルはない。ヒタルはある)ウグイ、ナマズ、アイカケ(アユカケと本来はいつたのか)などを釣った。

ヒテバリは四月末頃から九月末までしたと思う。五十センチほどのタコ糸に、大きい釣針をつけ、メメズ(ミミズをメメズと書いていた)の腹の中にクルクルと針なりにつけ、大井川の流れのゆつたりしたところか、木所モクのある淵などにひてた。

朝五時頃におこして、とたのんで、一箱に寝ていた祖母に、「房次。五時だよ」と起こされると、大和田の段々になった一番上の自宅から、下り坂の道を走るように下って、ひててあるヒテ針をあげに行く。

ニメートルほどの小竹のヒテ針をあげていくのだが、釣果はウグイ、ウナギ、ナマズ、アイカケ、カジカ(ほくたちは、ズンパまたはズンパチ、ズンバラロウなどと呼んでいたが)などが、ニ匹か三匹かかれば、大漁だった。五月頃から産卵期の腹の赤くなつたウグイ(さくらうむいといっていた)が二匹も釣れようものなら天にも昇る快感だった。

こぶりの竹かごを一人前に腰につけていくのだが、二匹もウグイが釣れようものなら、しかも大きなサクラウグイなら、庭先から、「おほあちや、いかいウグイが釣れたせん」と大声をあげる。祖母が「ドレドレ、ふんといかないよ、よく房

次釣れたなあ。房次は名人だよ」とほめあげるのだ。

ウグイなど釣れていると、すぐあがったのに、「おほあちや、なかなかひいてあげられんけん」というと、祖母は、「そうずら、いかいもの」と腰からとったビウ(こぶりの竹かごの別名)をのぞいて、また、「房次はふんとい名人だなあ。大人でもこんなにかい釣れんもん」と、とにかくほめまくるから、雨の降らない限り、濁流が澄み始めるとヒテバリをした。

ゆるい(圃野裏)でウグイやカジカを竹串にさし、こんがりと焼き、ある程度の数になると七輪でグツグツ煮て、家族一同で食べた。その時も祖母は、また、「房次の釣った魚はうまいなあ」という。みんなお膳で、黙々と食べるのが習慣だったが、それでも祖母は、「よくこんないかいが釣れたっけよう」と、また、いつてくれる。

祖母のほめ言葉は、何度聞いてもうれしかつた。隣りの同級の川井梅吉君といっしょに、ヒテバリをひてることも多かった。

えさのメメズは、四月五月はドブ板の下などにいるメメズだったが、六月になると、麦カラの下や里芋の敷草の下などに、やや大きい「ムイカラメメズ」を餌に使った。

中学三年頃までは、ほんとうによくヒテバリをした。

また、五月頃から、夕方、「カバリ」釣りもやった。一本五銭から十銭ぐらゐの毛針(ほくらはカバリといつたが)を三本ぐらいつけ、もろこしの茎などでウキをつくり、遠くへとはしては川面を引くと一条の筋となって岸までくる。遠くへ飛ばして水面にカバリがつかると同時に食いつくウグイなどもあった。日によっては若鮎も釣れた。

一本三十銭四十銭の高いカバリ(ほくたちはイシカワとい

ていた)だと鮎のほうが多く釣れたように思う。鮎もたくさんいたのだ。水量は多いし、放流などしなくても鮎は多かった。

ウグイやハヤなどを、ぼくらはザコ(雑魚)といったが、ハヤで針を切られることはなかったが、大きなウグイにはイシカワなどよく切られてガツカリしたものだ。

また、鉛の重りをつけて、刺の大きな岩をなめている鮎をイシカワでよく釣った。赤ライとか青ライなどというイシカワの名を覚えていて、山石をなめてコケを食んでいる鮎を釣りあげるとも愉しみた。キラリ銀鱗が光るのだ。

水温、天候などで、鮎のくいつくイシカワは微妙に変わった。

赤ライにはかかったが、青ライは見向きもしない、などということがあった。

イシカワは、子供のころつかいでは高くてなかなか買えなかったが、マルイ河畑園という茶商を、ささやかに創業して祖父も、孫には甘いのか、「オジイチャ、川が澄んでアイが釣れそうだ。イシカワを買って、せももらいたい」というと、五十銭とか六十銭出してくれた。

大和田から家山の「ゲタマ」とぼくらがよんでいた山本釣具店に行き、一本か二本のイシカワを買って戻り、測ヤト口にかけ足で行ったものだ。多いときには十匹ぐらい釣れた。

高校は二年おかれて昭和三十五年入学。

その頃になると、ウゲでウナギをとりにくくなっていた。農家の長男で、二年おくれの高校入学だから、そろそろ一人前の農夫になりかかっており、夏のカンカン日和に、日曜とはいえ、魚釣りなどできなかつた。

ヒレバリではものたりなく、ウゲでウナギ取りを考えた。これなら夕方は掛けて早朝あげるのだから、学業にもさしつかえ

ないし、野良仕事にもさしつかえない。田にはツボ(たにし)がたくさんいたし、餌に不自由はない。ヨシ、ウゲだ、となり、前田(家山川左岸の田、約八町歩ほどを前田という)にも三反半の田があり、隣りに、アブラ屋のトシニイグと呼はれていたウゲ作りの名人、諸田俊郎さんの作る田もあった。

名人に当時のことで、モチ米をいくらもお札にして、ウゲ五本を作ってもらった。二週間ほどドブにつけて、竹のニオイをとらないと、タメとも、また、ウゲのひて方も教わった。

ナルホドよくウナギがとれた。

タレはモツやウ骨やらを甘辛くして、ゆっくり煮れば、いいタレができることも教わった。

高校時代は、夏休みにはもっぱらウゲでウナギ取りをしたように思う。ちやうど電源開発で、どの旅館も満員の盛況であり、祖父の妹が嫁いで行った可愛楼には、一貫目三百円か四百円で何回か買ってもらった事もあった。

大学時代の四年間は、どうも釣りをしなかったように思う。専門書を読む面白さを覚えたか、も知れない。とにかく釣りの記憶がない。

釣りが復活したのは、昭和三十八年二月。はからずも川根町収入役に選任され、生家に戻ったことによる。もう、うなぎ捕りでもなく、カバリでもなく、友釣りでも鮎をかけることであつた。

朝五時頃、横の沢の友カンの鮎をもって、いつもの山石の出た川原に出かける。毎日同じ半畳敷ぐらゐの川底の岩で釣れるのだ。何匹釣っても、またその岩に新しい鮎がコケをなめにくるのだ。五匹、鮎がつかれば納竿ときめていた。だいたい一時間か一時間半で五匹は釣れた。

ところが釣れないときもある。家内が一金庫のカギがあかないで困ってるそうですよ。早く来て下さいとのことですよ」といいにくると、あわてて引きあげたこともあった。まことにノンキな役場づとめをしたものだ。今の御時勢なら、まさしくジビであろう。

八十歳にして、それにしても野放図すぎたな、と思ひ出す。その友釣りも三十八年夏と三十九年七月半ばまでで終る。大学卒業後、三年ほど地元秘書として仕えたことのある神田博先生から、再度厚生大臣になられたので、秘書官にといつてこられた。時の伊藤久一町長に相談すると、川根地域と中央とのパイプ役として、是非就任すべしと快諾をいただくと同時に激励も受け上京した。

東京の和泉多摩川に住んだ二年間は、近くの多摩川で、カバリでハヤなびを釣り、家内がフライにして食べたこともあった。まだ東京オリンピックの頃は多摩川もキレイだったのでしょう。

昭和四十五年帰省して、選挙に出るようになってから、釣りどころではなくなった。どうしても釣りをする心の余裕などなかった。議員をやめてからも、魚釣りの気などおこりはしなかった。

ところが教之の八十歳の去年、ふつと魚釣りがしてみたくなった。

家山川へ毎年、畑用に少しヨシを刈るので、家山川に鮎をみかけることもあり、また、鮎ダコケの食み跡もあり、カバリをやってみよう、と決意した日が雨だったり、友人が訪ねてきたりで、とうとうカバリもしなかった。

九月になってからか、山本釣具店でコロロペン（といって昔のようにガラスではなく、プラスチック）二個を買い、中に入るネオイの強烈なエサも買い、ザコが昔のようにたくさん入るか？とひびいてみた。一時間ほびしてあげにいったら、一本のピンに小さなドジョウが一匹、もう一本は何も入ってなかった。——ザコはいないのだ。——イシカワも五六本買ったのだったが、もう時期もおそいし、入漁証も買う気にならず、とうとう釣りはしなかった。

ところが今年になって、春から初夏を迎えるにつれやはり、カバリをやってみようという気になった。

鮎を釣りまくる算段だから、わが家のウラの道一つへだてた新大井川漁協に、年間入漁金を払い、一三六番のみどりの腕章をいただいた。

釣り竿は大丈夫か。テブス糸はと、五月三十一日、わが八十歳の誕生日に用意万端ととのえた。

明日はどうやら曇ったり晴れたりの予報。

明日の夕方が楽しみだ。釣果のほどは次号に、赫赫たる釣果をご報告しよう。

戦争中、わが大日本帝国の大本営は赫赫たる戦果を發表したもののだが、戦況不利になるにつれ、大ウソが多くなったが、ぼくは断じてウソはいわない。

釣りまくって、大釣果をあげてみせます。

乞う、御期待！

五月三十一日記

※細田洋司さんの「友への書簡」と河畑房次さんの「魚釣り大好き少年の八十歳までの大井川魚捕物語」は、共に「川根文芸第99号」から、寄稿されたものです。はじめ細田さん、そして河畑さんの稿を知り、編集室に届けていただきました。

3.11 ことども文庫 “にし”

2012.9.15(土)

OPEN

9/15(土)~17(月) 10:00~16:00
おりがみ教室開催!

福島県相馬市に
オープンします!



世界中から届いた絵本と
「子どもたちの絵の力で
できた文庫が

藤本都子さんより

3.11 ことども文庫
にし

オープンの
お知らせ!!
応援よろしく
お願いします。

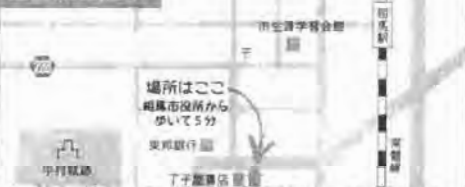


版画家・蟹江杏(かにえ あんず)が「東日本大震災で傷ついた子どもたちに絵本と画材を送ろう」と、知人・友人へ10通のメールを送ったことから始まりました。国内外から集まった児童書は1,200冊になり、相馬市に届けました。本はこれまで移動文庫「こぼこ文庫」として、各学校を巡回。また相馬市の子どもたちが描いた300点以上の絵は全国各地で展示され、多くの支援が寄せられました。こうした世界中のあたたかい心で、みんなの居場所「ことども文庫」を設立します。

9.29(土) オープン記念イベント

11:30~12:00 完成セレモニー 場所: ことども文庫 “にし”
14:00~15:00 読み聞かせ & 音楽の会 場所: 市生涯学習会館

福島県相馬市



版画家・蟹江杏(かにえ あんず)が「東日本大震災で傷ついた子どもたちに絵本と画材を送ろう」と知人・友人へ10通のメールを送ったことから始まりました。国内外から集まった児童書は約1200冊になり、相馬市に届けました。本はこれまで移動文庫「こぼこ文庫」として各学校を巡回。また相馬市の子どもたちが描いた300点以上の絵は全国各地で展示され、多くの支援が寄せられました。こうした世界中のあたたかい心で、みんなの居場所「ことども文庫」を設立します。



福島県相馬市



3.11 ことども文庫

※後張って下さい。

運営 NPO 法人
3.11 ことども文庫

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業

<http://www.facebook.com/ehonnomori>

BS朝日 加藤千洋の「日本風景遺産」に

「川根本町」が 出ました!!

昨年七月より地デジとなり、ふる里も地デジも局、BS10局のテレビが見られるようになりました。チャンネル操作も板に付いて、「国策」です。いなめ、みんな、地デジになったのか「心配」もわすれ、好きな番組選びもしてきます。

九月始め、表題の番組を見てびっくりしました。全国版の「人気番組」ですから、ご覧になった方も多かつたと思います。百聞は一見に如かず、映像からのふる里の光景は、見事て、いいPRになりました。内容の一部を紹介します。加藤さんは、尾呂久保にて、「ミ」は星空が美しい所だそうです。ね、土屋鉄郎さん宅にて、日本一のお茶をいただきました。お茶も、茶業のお茶談義と縁側からのなごみに満足され——。

寸又峡温泉にて、郷土色豊かなくれたけ食堂の味を味わい、温泉開業50周年の節目を迎え、先駆者望月恒一さんに、温泉発掘の話を聞き、50年頑張ってきた事に感激され、文沢にて、山を守る人、前町長の杉山嘉英さん宅に行き、

豊かな森の中で、一段とたくましくなった杉山さんと、林業の事や、先祖から未来へ継がれる家業をたのみめられ、徳山にて、八月十五日、浅間神社祭典奉納の「徳山の盆踊」を準備から、見聞、祭当日も、頭屋風景、道行巡行、宮入り「鹿ん舞」「ヒヤイ踊」「狂言」と興味津々、後日の片付けまで見聞され、国指定文化財をご覧になりました。

お盆をばさんでの川根本町、どれくらい、のロケーションだったのか、とにかく、暑いふる里を、かけめぐってくれました。そうそう、はじめ、S.L.に乗っての来町でした。懐しく、ご覧いただいた

方も多かつたのでは、と思います。特に、登場された皆さんが、川根本町の宝物ですから、風景+人物を広く知っていただいた事に、大きな意義がありますね。又、大井川や、川根路がテレビに出るかも知れません。その時は是非とも、ご覧下さい。

近世大井川流域の
交流を探る

高木茂明 著



高木さんの電話番号. 0547-56-0710

高木茂明さんが「近世大井川流域の交流を探る」という本を発売しました。A5版、二七五ページにおよぶ、歴史書です。高木さんが、研究探究された、学術論文です。くわしく内容を知りたい方、もしくは、買いたい方は、直接高木さんまで、ご連絡をお願いいたします。
連絡先、〒四二ハ一〇三三

静岡県榛原郡川根本町上長尾一三六五
高木茂明 屋号古家

定期購読のお願い

このふる里通信は有料発行です。

I部送料込300円

皆様の定期購読がこの通信の発行を支えます。年間4回の発行を目指しております。そして目標の100号はもう手の届くところまでまいました。支えて下さった皆様のおかげです。

はじめて読まれる方も、購読が切れた方には、郵便振替用紙を同封します。会員になっていたのだから、引き続きご覧いただければ嬉しいです。

なお、1回1回のご送金は大変ですから1年分、1,200円をご利用下さい。

又、やめたい方もお知らせ下さい。

発行責任者 〒428-0313

静岡県榛原郡川根本町上長尾859-6

小澤節子

TEL 0547-56-0015

FAX 0547-56-0020

郵便振替口座 00870-4-81556

★8月14日、金星生食の様子。2時45分頃から3時30分頃まで。下の方向(東の空)から入って、26日月の陰に金星がかくれ約45分後に食が終了。月から顔を出したところ。画像インターネットあり。



★8月13日、2時頃。東の空には、金星・25日月・木星が等間隔一直線に並び、見事な光景でした。その日前後は、ペルセウス座流星群(流れ星)も見られ、豪華な身近かな天体ショーが見られました。

ペルセウス座流星群



★今の夏も暑かったですね。大災害のあった昨年でなく、よかつたと思います。様々な工夫で電力の需要倒も供給側も、猛暑に対応出来たのですね。世界で一番明かると言われている日本上空の夜空も、少しは改善されたのでは、ないかと思えます。

★今の秋は、全国育樹祭、全国お茶祭と、県内で大きなイベントが続きます。11月10日天城の森林、11日小笠山運動公園で、全国育樹祭が催されます。3ヶ月前、私の所属する森林づくりの会が、表彰されました。長崎県聖仙普賢岳の被災から復興まで二十年の月日を要した、と、皇太子殿下との対面と夢のような時が思い出されます。今回は、育樹祭は、掛川市との寺として、祭の下ごさえを致します。お茶祭は、掛川市との寺、川根茶産地にとっては、厳しい教訓となり、たが、今後、頑張る目標になります。

★あと、二十五年位後に、夢の乗り物、リアモーターカーが登場すると報じられました。そして、その計画が現実みを帯びて来た。と感じたのは、大井川最上流部南アルプス地中深く、路線が通る計画があり、その地層の探査をする現場を見学しました。すでに一ロロM以上試掘したそうです。その地点は、標高一四〇〇M位ですから、地下一ロロM位の所をトンネルで、山梨方面から長野方面へ風のように走り抜けるのでしようね。その時代は、すぐそこに来ているようです。

★久野脇、佐漢葉師の御開帳が七年後、こちらは、元気でいら、おまわり出来そうです。二〇二〇年(平成三十二年)一月七日、老いも若きも、赤々と燃えさかる火をかみ、ひおどり、を踊り、何より美しい葉師菩薩にお目にかかりたい、びびるんこぞって、共々、まじり。